

令和5年度 学校評価 自己評価（中間）

令和5年度 長野県小諸商業高等学校 学校評価 自己評価（中間）

学 校 教 育 目 標	中 ・ 長 期 的 目 標
教育活動を通して、個人の尊厳と協調の精神を体得させ、民主的な国家社会の形成者たる資質を培うとともに、専門教育により広く国民経済における商業諸活動の担い手としての有為な人材を育成する。	・心身ともに健全で、人間性豊かな生徒を育てる。 ・学校及び社会生活の規律を重んじる心を育てる。 ・学習習慣を確立させ、自ら学び自ら考える態度を育てる。 ・進路目標を明確にさせ、その実現に向けて粘り強く努力する姿勢を育てる。
今 年 度 の 重 点 目 標	
・基本的生活習慣の確立および、挨拶・身だしなみの徹底を図る。 ・自ら問いを立て、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む力を育成する。 ・地域社会との連携や協働による活動を通し、探究的な学びを推進する。 ・学習活動や様々な行事等へのICTの積極的活用、および知見の共有を推進する。 ・生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめ・体罰等のない、安心安全な学校をつくる。	

A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

部	担当	今年度の重点目標	具体的な方策	評価	今後の課題・改善策等
教務部	教務	円滑な学校運営の推進	・長/中期的な見通しを立て、計画や実施方法を具体化し、全職員で共有、各部および部内担当と有機的に連携しながら学校運営を行う。本校の最上位目標(グラジュエーションポリシー)の合意形成から、カリキュラム～アドミッションへと具体化できるよう、全職員で共創する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の2回のワークショップを経て、本年度グラジュエーションポリシーを具体化した。それに準じてカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーも文章化して、3つの方針を作成した。方針をグランドデザインに落とし込み、中学生向けに表現した。生徒の実態、世の中の動向に合わせて、随時ブラッシュアップを行う予定。 ・本年度前半に休校や学級閉鎖はなく、ほぼ計画通り運営できているが、今後の有事に備えて、計画一斉オンライン授業を行う予定。また、1学期終業式は熱中症への警戒から放送により実施したが、それ以外は全校生徒が集まり体育館にて式を行った。式に併せて、海外研修報告や英語スピーチなど、生徒の活躍を全校生徒で共有する仕掛けをつくった。6月の学び合いWEEKでは互見授業を通して、教員同士のつながりを表現できるよう仕掛けた。 ・新校へ向けて、今後の教科間・係間連携に活用してもらうため、小諸高校、小諸商業お互いの学校要覧を全教員に配布した。新校内規作成にあたって、まずは両校の内規を比較できるよう項目ごとまとめた。
			・新型コロナウイルス感染症の規制緩和措置に併せて、コロナ禍を経験したからこそその技術やマインドを活かしながら、通常の活動に戻していく。		
・生徒の安全/安心および学びの保障を最上位目標に据えて、社会的変化に応じて、3F (Fast:迅速に、Fair:公平に、Fun:楽しんで)を基本に対応していく。					
・2026年度開校小諸新校への統合に向け、内規や学校行事などの精査および具体化を進める。定数減や新校準備に伴う職務負担の増大を職員間でフォローできるよう、寄り添う姿勢や日頃の声かけ、対話の機会を創り出せるよう運営する。					
教務部	教務	広報活動の充実と生徒募集対策	・体験入学、授業公開、クラブ体験、入試説明会など、在校生が活躍することで、本校の活きた空気を中学生に感じてもらえるよう、計画/実施/支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体験授業では、本校生徒が情報処理の講師となり中学生にPC操作等を教えた。また、新たな企画として、各分野で活躍した本校生が中学生に話をして、質問に答える「小商生に聴こう」を設定した。昨年に引き続き、生徒会生徒も運営に携わった。公開授業を告知するためのパンフレットを作成して、HPにアップした。クラブ体験参加人数が昨年度に比べて少なかったのは、多くの中学校で定期考査や文化祭と日程が重なっていたという反省を来年度に活かしたい。 ・商業科中心に学校説明会に参加し、本校での学びをアピールした。昨年度に引き続き、個別出張説明会の依頼があり次第、その都度、中学校に伺う予定。 ・学校パンフレットは内容、レイアウトを大幅に変更した。本年度は、国語の授業で卒業生が制作した小商キャッチフレーズをもとに、美術部生徒が表紙を描いた。
			・中学校訪問だけでなく、個別出張説明会を広報し、より多く出向くことで、より多くの中学生や保護者が本校に触れる機会を増やし、その中で商業の魅力や価値を発信して「伝わる」「行動させる」ような工夫を講じる。		
			・新校で卒業する入学生や保護者に向けて、商業科の魅力や強みを分かりやすく伝え、かつ二年次までおよび統合後の学校生活等について、小諸高校と連携して、できるだけ具体的にイメージできるような学校パンフレットや案内の作成/配布を行う。		

PTA 同窓会	PTA活動の充実	○厚生委員会 ・「PTA講演会」の企画 ○教養・生徒指導委員会 ・「朝の声掛け指導」で生徒とふれあう ・年2回発行「PTA会報」の内容充実 ・「PTA同窓会講演会」の企画	B	・PTA講演会は計画通り実施した。参加者が少ないため来年度については再検討が必要である。 ・「朝の声掛け指導」は例年通り実施する予定。 ・「PTA会報」は1回目を発行し、2回目も発行する予定。
	学校に足が向くPTAづくり	・PTA講演会・総会・学年学級PTAへの参加呼びかけ ・スマイル小商店街・合唱コンクールへの参加呼びかけ ・PTA同窓会講演会への参加呼びかけ	B	・PTA講演会、総会、学年学級PTAは計画通り実施した。 ・スマイル小商店街・合唱コンクールは詳細が確定した時点で参加呼びかけを行う。 ・今年度のPTA同窓会講演会は同窓会が担当したが、運営等の協力を行った。
	同窓会 学校や生徒のニーズに合った講演会の計画・実施	・より良い同窓会（PTA共催）講演会を企画する。 ・学校、生徒の要望を正確に捉え、同窓会として応えられることを行っていく。	B B	・PTA同窓会講演会を企画し実施した。本年度はPTA係が主担当となって実施したため、同窓会係としては出席者の確認等運営面のサポートを実施した。 ・同窓会事務局と協力し、同窓会報の発行など連携して行った。
ICT	学習活動へのICTの積極的活用の推進	・ネットワーク環境を活かせるよう機器の導入、管理、メンテナンス等を行う。 ・GIGAスクールサポーター、職員による研修会を実施する。 ・教員、生徒の一人一台端末の運用のサポートを行う。	B	・機材の管理、整備を行った。電子黒板のスタイラスペンの故障に対応中。 ・GIGAスクールサポーター個別研修を実施した。 ・引き続き、行事や授業でICTを活用しやすい環境を作りを行う。
生徒指導	登下校中の安全の確保	・登下校指導により交通ルールを徹底させる。 ・自転車通学者に交通安全を定期的に啓発する。 ・自らの命の大切さと他者への安全配慮を徹底する。	B	・登下校指導で継続しておこなう。 ・自転車登校の生徒数は少ないが、その他生徒にもヘルメット着用を徹底する。 ・各HRや全校集会などで注意喚起をおこなう。
	身だしなみの確立	・家を出る時から帰宅まで身だしなみを崩さない指導と助言を行う。 ・オフィシャルウェアとプライベートウェアの違いを理解させる。とくに式典時の身だしなみ指導を徹底する。	B	・ネクタイリボン、スカートの正しい着用ができない生徒がいるため、身だしなみ指導の徹底を粘り強くおこなう。 ・一部で改善の必要がある。継続的に理解を深めるよう指導を行い、正しい身だしなみで生活できるようにする。
生徒指導部 人権平和	社会的弱者とされる障害を持つ方や高齢者、女性、また同和地区出身者や外国由来の方など様々な立場の人々のおかれた状況や想い、生活課題などを知ることを通して、自立した人間として他者とよりよく共生できる感性と態度を育成する。	・全校生徒対象の人権講演会（または映画観賞会）を実施する。 ・他の係と連携をとり、人権意識の向上、道徳教育の推進に努める。	B	・現在、10月実施の人権講演会を計画しており、県警スクールサポーターの方の性被害防止の講演を聴く予定である。 ・「学校や社会への適応」について検討すべく他の係（生徒相談等）と連携を図りたいと考えている。
	・修学旅行などの行事を通じて、被災された方々の労苦に想いを馳せると共に、防災・減災に対して学びを深め、地域社会の担い手としての意識を高める。また授業やその他の行事を通して、戦争の悲惨さを知ると共に平和の大切さを学び、主体的に平和を構築できる意欲と態度を育成する。	・修学旅行の事前学習や各学年行事など学年とも連携して、安心して生活できる環境（防災や平和への意識）のありがたさを認識させる。また授業などで各教科とも連携し、生徒が戦争の悲惨さや平和の大切さを継続して意識できるよう、配慮する。	B	・社会科の授業で、3年は日本史で近現代の戦争関係を扱う予定であり、また2年は神戸への修学旅行の事前学習として「防災学習」を扱う予定である。
	・生命の大切さや人間としての尊厳を意識させ、あらゆる差別やいじめ、不正を排し、自他を尊重できる実践的な態度を育成する。	・各係と連携し、命の大切さの意識や新型コロナウイルスの感染などから生ずる差別やいじめなどを許さない意識や態度の育成指導を、適宜適切に行う。	B	・新型コロナ感染に関連してのいじめ防止啓発ポスターを掲示した。今後もその時々具体的な社会問題等を取り上げ、学習を深める機会にしていきたい。

	生徒相談	いじめ・悩みを抱えた生徒及び特性を持つ生徒の掌握と適切な対応・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・アセス、「いじめ・悩みに関するアンケート」実施 ・生徒相談委員会、学年、学級担任、保健室との連携 ・SC、SSW、巡回支援指導員の活用 ・教育相談調査票の実施と活用 ・支援会議の計画・実施 ・支援に必要な情報提供 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、2回目のいじめ悩みアンケートやアセスの実施が予定されており、結果を活用できるようにする。 ・2月に3学年への自殺予防に関する学習が予定されている。 ・支援会議や巡回支援指導員、SC、SSW活用に関しては適宜行っており、今後も必要に応じて行っていく。
		いじめ防止及び自殺防止に関する生徒、職員への研修	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒の実態に即した学年ごとの研修の実施 ・職員への情報提供、情報共有と研修 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ予防に関する研修会は年間で計画されており、1学年、2学年については終了しており、3学年はこれから予定されている。 ・係が受けてきた研修に関しては必要に応じて職員に提示していく。
進路指導部	進路指導	生徒の進路意識の熟成と自己理解の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より情報収集に努め、様々な経験を通して生徒が自分の生き方を考えられるような進路行事を企画する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現実的な視点に立ち、将来を模索する機会となるような進路行事が実施できるように心がける。6月の進路行事日では各学年に見合った行事を企画し、運営することができた。 ・目的意識が向上し、主体的に学習に取り組めるように、生徒にとって効果的な外部講師による講座を検討する。8月の医療系学習会では目標進路実現のための効果的な意識付けができた。 ・就職支援員による雇用情勢や本人の適性についての面談や面接試験対策が職業意識の向上につながっているため、引き続き協力を得ながら適切な指導・助言を行えるようにする。 ・高大接続改革による生徒への影響を考えながら、早めの対応ができるように情報収集を行い、指導体制の整備ができるよう心がける。
			<ul style="list-style-type: none"> ・上級学校と連携した出前授業や特別講座を積極的に取り入れ、個々の生徒の成長を促す。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・企業の雇用情勢や業務内容に注目をさせ、仕事への適性について考えさせる。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・高大接続改革に向けて情報収集をするだけでなく、共有の場を設け、受験に対する指導体制の構築を図る。 		
		基礎力診断テストの有効活用と基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する動機付けおよび意識付け、職員への情報共有を行い、より有効な活用方法を模索する。 ・基礎学力定着のための学習計画の立案と実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・付随する事前学習教材を該当教科の授業で取り扱うことで、生徒の学習意欲に結び付け、基礎学力定着のきっかけにする。 ・基礎力診断テストまでの学習計画を明確にし、情報共有を心がける。
図書視聴覚	生徒の教養・知識の育成と学習センターとしての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用の促進を図る ・図書委員の指導 ・図書の貸し出し返却の手続き・貸し出し期限の厳守 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に向けて蔵書の分類整理の徹底と館内と書庫の廃棄など環境が整えられた。 ・委員の当番活動の徹底を促す。 ・5月24日から朝読書を実施することができた。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を収集、選択、活用する能力育成のための情報センターとしての役割 ・蔵書の配分比率に即して本を収集する ・購入希望調査 ・図書館教諭・司書の研修会参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、職員からの希望に応え、図書館利用が促進された。 ・近隣の図書館ネットワークを利用し、授業で活用する資料を集めることができた。 	
	読書を楽しむ、想像力と豊かな心をはぐくむ読書センターとしての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を積極的に行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便りを定期的に発行し、生徒、職員、保護者に情報を発信した。 ・朝読書の事前連絡を徹底し、本の準備を促した。 ・佐久高等学校図書委員会に正副委員長とともに参加し、他校の活動状況を学ぶことができた。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・他校との交流 			
	生徒会活動などにおける適切な放送運営	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事については、生徒が主体的に行動できるよう日頃から機材等の取り扱いを指導する。 ・本部役員とも連携がとれるよう適切な助言を行う。 ・各種行事ではコロナウイルスの感染状況により、急な変更にも対応できるよう、日頃よりICT機材の準備に慣れさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の放送や行事における放送も計画通り実施することができた。 ・今後も合唱コンクールなどの行事も控えているため、生徒の指導を継続して行っていく。 	

生徒会部	生徒会	主体性、協調性を持たせ、積極的に委員会活動へ参加させる。	・委員会活動の意義と各委員会の役割を理解させ、自覚と責任をもって仕事に当たらせる。 ・受け身ではなく、自ら出来ることを考え、実行していけるような積極性と責任感を持たせる。	B	・それぞれ責任のある立場ということを理解しているが、中には自覚がなく人任せな役員がいるため、引き続き指導を行う。 ・考えるだけでなく、自ら考えたことに責任を持ち実行していけるように指導を継続する。
		各種行事に全力で取り組み、一つ一つの行事が役員だけでなく全校生徒が満足のものとなるよう努力する。	・各種行事については、全校生徒が「与えられて」行うのではなく、全校生徒で「作り上げて」いけるようなものとなるよう工夫させる。 ・行事の企画運営に関し、リハーサルの徹底にこだわり本番さながらの準備ができるよう、適切な助言・指導を行う。 ・各種行事ではコロナウイルスの感染状況により、急な変更にも対応できるよう、日頃よりICT機材の準備に慣れさせる。	B	・小商祭では感染症や熱中症に配慮しながらも、役員同士で意見を出し合い、自分たちの理想の文化祭に近い形での開催ができた。 ・各行事ではリハーサルを丁寧に行い、本番を想定した取り組みができるよう努めた。計画的に準備を進められるよう指導を継続する。 ・対面であってもICTを有効に活用して行事に臨むことができた。
	整美	校舎内外や学校周辺地域の環境美化に取り組む。	清掃用具を整備して各自が清掃活動に参加できるようにする。	B	・各清掃分担場所の清掃用具の点検や要望等を聞きながら、不足している用具を整備した。学校周辺の地域の環境美化の取り組み方法を検討したい。
		ゴミの分別の徹底を図る。	各クラスやゴミ集積所で、美化委員により呼びかけを繰り返す。	A	・燃えるゴミと燃えないゴミの分別は定着してきている。資源ごみと燃えるごみの分別やゴミの減量化を繰り返し呼びかけていく。
	保健	自らの健康について関心を持ち、生涯を通じて自発的に健康な生活を送ることができる能力を育成する。	・定期健康診断や健康相談等を通じ、自らの健康課題を把握し改善することができるよう指導する。	B	・定期健康診断後に受診が必要な生徒には通知を出し早期受診を勧めた。未受診の生徒については、担任とも連携を図りながら進めていきたい。 ・体調不良の原因が生活習慣の乱れやストレスによるものが多い。引き続き保健指導や健康相談を実施していきたい。
			・外部講師による保健講話を実施する。	B	・2、3年生を対象に性に関する保健講話を実施した。個別指導・個別相談については機会があるごとに実施していきたい。 ・薬物乱用防止講演会は3年生を対象に実施予定。

学年	今年度の重点目標	具体的な方策	評価	今後の課題・改善策等
一学年	基本的な生活習慣の確立をし、高校生としての自覚を持ち行動できるようにする。	・挨拶、身だしなみ、時間を守ること、提出物の期限を守ることなど日々の声掛けを通じて生活習慣の確立をする。スマートフォンの扱いなど、高校生として自分の行動に責任を持つことの大切さを教える。職業について知り、これからの進路について考えさせる。	B	・入学直後のスマートフォンについての講演会、定期的な学年集会を通して、またHRを通して生活習慣の育成をはかってきた。今後も継続していきたい。進路については外部講師によるワークショップを行って職業について考える機会を設けた。
	学習習慣を身につけ、主体的・協働的に取り組む力を養成する。	・学習環境を整え、日々の授業に集中して取り組めるようにする。学習課題を期限を守って提出できるようにする。グループワーク等を通じ友人と協力して課題を解決できるようにする。	B	・特にビジネス探究プログラムの授業でのグループワークから、対話し課題を見つけ、発表できる力を身につけた。
	人権尊重の姿勢を育む。	・ソーシャルスキルトレーニングなどを実施し、他者との関わり方を学ばせる。いじめ・悩みアンケートや日々の生徒の様子から、問題の早期発見・解決をし、人権侵害は絶対に許さない姿勢で生徒に臨む。	B	・2回のSSTから寄り添い、認め合うことの大切さを考えることができた。今後も継続して指導していく。SNSトラブルにはこれからも注視する必要がある。

二学年	自律 自ら考え、行動する姿勢を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、身だしなみ、時間の管理等の基本的な生活習慣の確立するため、日々の声がけを行う。また、公私の区別をつけた振る舞いができるよう、日々の声がけを行う。 ・学習環境を整え、授業に集中できる空間を作る。そのために、徹底した私物管理と生徒自身による整美活動をうながす。 ・授業や進路活動を通して、自己理解をし、自己の価値や学びの意義を見出すとともに、学習習慣の確立を目指す。 	B	・SHRや定期試験時での身だしなみ検査を継続していく。さらに、全校集会や学年集会などの機会あるごとに全体的指導と実施し、必要に応じて個別指導を粘り強く行う。
	協調 他者を尊重し、他者と協調する姿勢を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶と感謝の気持ちをきちんと表現する習慣を確立する。 ・学年集会や講演会等を通じて、他者理解への意識を高める。 ・修学旅行や学校行事を通じて、他者と活動する機会を持ち、相手を尊重した振る舞いができるよう努める。 	B	・ホームルーム活動や生徒会活動・クラブ活動を通し、様々な場面で成長が感じられることがあった。修学旅行などの他者と活動する機会を活かし、さらなる成長を目指していく。
	挑戦 物事に前向きに取り組む姿勢を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を持つために、校内外の進路ガイダンスを通じて、就職や進学に関する知識と意欲を高める。 ・検定取得に向けた活動、校内外での個々の活動を通して、前向きに挑戦する姿勢を確立する。 ・検定取得や学校生活を通して自己肯定感を高め、新たな可能性を切り拓く姿勢を養う。 	B	・学年で校外の進路説明会に参加し、長期休業にはオープンキャンパス参加や企業調べといった進路学習を課題にした。個人差はあるが進路意識が高まった生徒も見られるので、今後も進路学習を重ね、意欲的に進路活動に取り組めるよう指導を継続していく。
三学年	基本的な生活習慣や、集団の中での行動を通して社会人基礎力を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学年集会などを通して、時間厳守、身だしなみについて繰り返し指導する。聴く姿勢を身につけさせると共に、主体的に学習に取り組む習慣づけを行う。 	B	・生徒会活動などで自主的に活動する姿が多く見られた。最上級生としての自覚と責任を持つことができるよう今後も指導を継続していきたい。
	自ら考え、主体的に行動する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学年集会などを通して、時間厳守、身だしなみについて繰り返し指導する。聴く姿勢を身につけさせると共に、主体的に学習に取り組む習慣づけを行う。 	B	・日々の活動の中で、基本的な生活習慣を繰り返し指導している。主体的な行動はそれの上に成り立つものであるため、今後も基本的な生活習慣の指導を継続していきたい。
	各自のライフプランについて考えさせると共に、進路意識を高め、個々の進路を具体化させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスや講演会等を有効に活用し、生徒がそれぞれの進路を具体化させるとともに、進路実現のための課題を考えさせる。また、多くの「大人」との交流も積極的に仕掛けていく。 	B	・進路に向けて準備面でサポートが必要な生徒も多くいる。今後も指導を継続していきたい。